

第22号

つぼみ



まだ花は咲かない でもいつかきっと それぞれのステキがはなひらく

(編集・発行)
社会福祉法人 豊中親和会
生活介護事業所 第2みらい
(発行人)
中村 文俊

〒561-0846
大阪府豊中市利倉東2-1-15
TEL06-6867-0828
FAX06-6864-5634

平成28年度 いたみ杉の子会研修

せいかつしえんいん よしみ ゆうき
生活支援員 吉見 祐樹

平成28年4月22日にいたみ杉の子会研修に参加してきました。この研修では実際に現場で利用者さんと触れ合う際に、支援員が気をつけなければいけない事、自閉症の特性等について学んできました。

自閉症は先天的な脳の機能不全による障がいの事で、主な症状として①社会性の違い②コミュニケーションの違い③想像力の違いがあります。具体的にいうと、①社会性の違いは、人のやり取りや社会のルールを理解するのが苦手なこと。②コミュニケーションの違いは、言葉と言葉のキャッチボールが難しいこと。③想像力の違いは、目に見えない事や経験していない事に対して想像・予想するのが難しいこと。などがあげられます。

最近の調査では、自閉症は80人に1人という割合で発症しています。現代の医学では根本的に自閉症を治療することはできませんが、薬物療法で抑えることができると言われています。

また、この研修では自閉症だけではなく、てんかん発作や染色体異常についても学んできました。てんかん発作や染色体異常は、知的障がいをお持ちの方が併せ持つ、その他の障がいに含まれます。てんかん発作については、発作が起こるはつきりとした原因は解明されていませんが、てんかん発作が起きた際の症状として具体的にあげると、体が硬直する・痙攣をおこす。などがあげられます。

染色体異常は、容姿に特徴が出る事が多く、例えば顔つきが特徴的なダウン症があげられます。今回の研修では、知的障がい者の方と実際に関わる中での注意点や、実際に関わる中で気をつけなければならない事、自閉症についてなどいろいろな事を学んできました。特に自閉症に関してはあまり知識がなかったのですが、今回の研修で少し知識を得ることが出来たように思います。今後も研修に参加し支援に生かしていきたいと思えます。

研修実績

月	研修名	受講者	月	研修名	受講者
2	発達障がい連続講座	田村・武内	4	新人職員の為のサービスマナーセミナー	吉見・高尾
	行動障害ケース検討②	田村・高橋		知的障がいについて支援者が気を付けてほしい事	関田・高橋・吉見
	自閉症ワークショップ	高橋		問題行動の理解と対応	関田・高橋
	TEACHコラボレーションセミナー	高橋		PECSレベル1ワークショップ	高橋
3	実践報告会 ～自閉症支援の為の診断・評価ツール～	田村・関田 高橋・前田	5	困難事例検討1構造化の応用	関田・高橋
	発達障がい連続講座	田村・高橋・武内		自閉症右ベクトラムの方の特性	関田・高橋・吉見
	TEACHピックセミナー	高橋		eカレッジ	隅倉・吉見・佐藤
				発達障害のある人の成人期の支援について	田村・高橋

雑巾



新しい雑巾でご自宅のお掃除を是非。1枚 60円 販売中

陶芸



1つ1つ手作りで個性溢れる品です。食卓に潤いを!

寄付のお礼

(H28.2.1～H28.6.3)

- 空き缶 … ￥96,776- ○ 辻村 恵美子 様 … ￥10,000- ○ 入江 忠徳 様 … 花苗他
- 谷本 善理恵 様 … ￥30,000- ○ 保護者 1名 様 … ￥20,000- ○ 花苗プロジェクト 様 … 花苗他
- 丸山 直也 様 … ￥20,000- ○ 木下 サークス 様 … チケット鑑賞券 ○ 大阪穀物事業組合 様 … 節分用豆類
- 中井 清美 様 … ￥10,000-

ご協力 ありがとうございます

編集後記

広報紙つぼみ22号いかがでしたでしょうか。ジメジメとした梅雨がもうすぐ終わり、季節は夏となっていきます。皆様、暑さなどで体調を崩されません様、日々ご自愛ください。広報紙つぼみはホームページにてバックナンバーがご覧いただけます。http://www.toyonaka-sinwakai.or.jp/daini.htmlお手隙の際、ご覧ください。

より良き支援を目指して

第2みらい 主任 田村 良子

日頃より、第2みらいの運営にご理解ご協力を賜りまして有難うございます。

第2みらいでは4月より新年度が始まり、個別支援計画に基づいた支援を行っています。

そして国としては4月より障がい者差別解消法がスタートされました。

国の施策として社会的なバリアをなくそうと合理的配慮が打ち出され、障がい者が社会の中で当たり前のご様子に過ごす上での、大きな一歩のように思えます。

そして合理的配慮がうたわれるようになった今、私たち職員は、日頃の利用者のみならず、社会に向けて利用者の困っている事や、それに対してどのように配慮をすれば良いのか(バリアフリー)などを発信していく大きな役割があるように感じます。

最近の事ですが、子供の小学校の参観に行った時、「教室内のレイアウトとして黒板周りに掲示物をしない(着目する点を明確にする為)」や、「時間割などの準備物を教科ごとにまとめる(持ち物がわかりやすいための配慮)」等、とても工夫されていました。それは、障がい者の方に対しても必要な工夫(合理的配慮)であると思えます。

一歩社会に出れば、なかなか障がい特性への理解の乏しさと配慮の乏しさから、生きにくさを強要されてきたように思いますが、少しずつではありますが、身近なところでの合理的配慮が進んでいる事にとっても喜ばしく思いました。日頃目に見えて大きく何かが変わったようには見えないかもしれませんが、着々と理解の輪は広がっている様に感じられ、その事が嬉しく思えます。

私たちの日頃の支援が「支援＝施設内」だけでなく、広く社会的にも利用者の障がいに対する理解が進むように、まずは私たち支援員が尽力していきたいと思えます。

今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。